

Column2 困難さの背景を探る

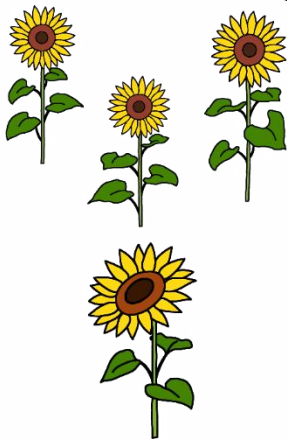
自立活動の指導目標・内容を考える上では、児童生徒が抱える「困難さ」の背景を考える視点が必要です。例えば、「文字がうまく書けない」という困難さがあった場合、その背景には、

- ・身体的な要因：手の器用さ、握力の弱さなど
- ・視知覚的な要因：文字の形を正しく捉えられない、空間認知の困難など
- ・注意の要因：不注意により、細部の違いに気づけないなど

といった様々な要因が考えられます。

同じ「文字がうまく書けない」という困難さであっても、その背景が異なれば、効果的な指導方法も異なります。自立活動の目標・内容は、その困難さの背景に合わせたものでなければなりません。

複数の教員や専門家など、様々な視点から得られた情報をもとに、困難さの背景を捉えましょう。そのツールとして「流れ図」を活用してください。



おけざる